

第3章

計画の推進体制と評価の考え方



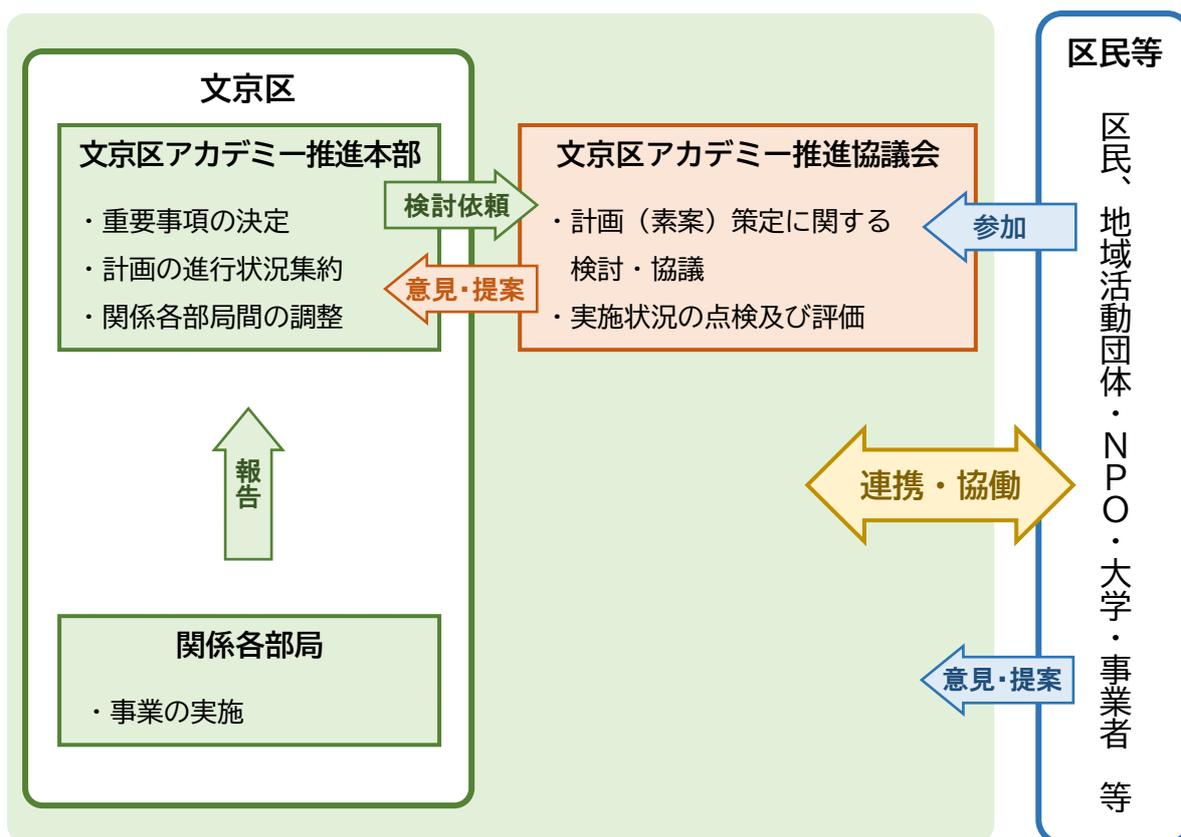
1. 計画の推進体制

本計画は、区と区民等の「連携・協働」に基づき推進するため、庁内のみならず、区民等からなる会議体による事業評価が必要です。

そこで、前計画に引き続き、各種事業を推進するための庁内組織である「文京区アカデミー推進本部」と、評価を行うための区民参画組織である「文京区アカデミー推進協議会」からなる推進体制をとります。

「文京区アカデミー推進本部」では、アカデミー推進部を中心として関連する各部局との連携・協力を充実させ、本計画に定めた各種活動の活性化のための施策・事業を総合的に推進していきます。一方、「文京区アカデミー推進協議会」では、次年度の事業実施に活かすため、毎年度、計画における事業の実施状況について、区民目線で点検及び評価を行います。

本計画の推進体制



2. 評価の考え方とPDCAサイクル

今までのアカデミー推進計画は、毎年度、主に事業の実施状況に着目し、定性的な評価を行ってききましたが、このような方法による評価では、事業自体の進捗状況は把握できるものの、事業によって区民にもたらされる成果がわかりにくいという課題がありました。

本計画では、定性的かつ定量的な方法で計画の達成状況を評価するため、可能な範囲で指標とその目標値を設定します。指標とその目標値は、各事業により区民にもたらされる成果であること、区民を対象に行う実態調査の結果等、既存の調査結果から収集できるものを優先的に活用することを基本としています。

本計画を着実に実行するため、5分野の基本方針や施策等を定め（Plan）、区民や関係団体等と協働して事業を実施し（Do）、事業の実施状況や指標の達成状況を踏まえた点検・評価を行うことで（Check）、次年度以降の事業の改善や計画の見直しを行います（Action）。

このように PDCA サイクルを実行することで、実効性のある事業の企画・実施につなげ、各分野における基本方針、そして本計画の基本理念である「区内まるごとキャンパスに - 「文の京」、人とのつながりと心の豊かさを育みながら、一人ひとりの多様性を活かし、新たな価値を創造するまち -」の実現を目指します。

